



『「勉強しなさい！」と言わない子育て』著者 山本崇雄 より Vol.1

Q 大人の言うことをよく聞く「従順な子ども」は、これからの社会ではダメなのでしょうか？

A **いつまでも「大人に言われるまま」では、主体性は育ちません。自ら考え、行動できるようになることが重要でしょう。**

Q 主体性の大切さは分かります。指示がなければ動けないようでは、社会に出てから大変です。ですが、指示通りに動くことが必要な場面もあるのではないのでしょうか？ うちの子たちは、家では多少、反抗することもありますけれど、先生の指示や指導には従っているようです。でも、主体的と言えるかどうか……。そういう子は、これからの社会では評価されないのでしょうか？

A **そんなことはありません。大切なのは指示に対して、目的や理由を自分で考えて、判断し、実行しているかです。親や教師の言うことに従っている「だけ」では、主体性が育たないということです。**

Q 親や先生に言われるがままではダメということですか？

A 例えば、自転車に乗れるようになるまでには、親が後ろから支えたりしますよね。ちょっと慣れてきたと思ったら、「放さないで！」と言われても、適度なところで手を放します。すぐに倒れて子供に怒られたりもしますが、いつもでも親が支え続けるわけにもいきませんから、また手を放します。そのうちすうっと走っていけるようになるわけです。

Q 手を放さないと、いつまでたっても一人で自転車に乗れるようになりませんか？

A はい。主体性を育むのも自転車の練習と「あれをしなさい」「これをしなさい」と指示を出し、支え続けていれば転ぶことはないかもしれませんが、でも、主体性は育まれません。**指示という支えがなくなったら、途端に動けなくなってしまうでしょう。子どもたちには、最初から支持をうのみにせず、自分で考えて、判断して、動くことを促さなくては行けないのです。**

Q 自分で考えて、判断して、動くと、結構大変なことですよ。

A 何も考えずに指示に従っている方が、断然、楽だと思います。でも、その楽さに慣れ切った状態で社会に出て、急に「自分で考えて行動しろ」「主体的に動け」と言われても、そんなにすぐには変わらないでしょう。

Q そうですね。大人になってから考え方などを変えるのは大変ですよ。

A **子どものころから、「どうしたい？」と自分で考えることを促し、自分で判断し、動くことを繰り返すのが大切です。**もちろん、間違った判断や行動をしてしまうことも多いと思います。でも、失敗した時に、原因を考え、周囲にアドバイスを求める、助けを求めるということを覚えるのも重要です。それに、「子どもの失敗」は、大人がカバーできる範囲であることがほとんどです。取り返しのつかないほどの失敗にならないよう、親や教師がそっとサポートすることもできます。

学校でも家庭でも、子どもができないことについつい目がいってしまいます。そして、良かれと思って、「●●しなさい」と言ってしまう。でも、誰でも最初はうまくできないのが当たり前なんです。うまくいかないことも、「いい経験になったね。どんな失敗をしても家族は味方だからね」と温かく見守る環境を整えながら手を放していきましょう。